



令和4年度



鹿部町長 盛田 昌彦

町政執行方針

令和4年第1回鹿部町議会定例会の開会にあたり、私の町政執行に対する所信と基本方針を申し上げます。新議場での、初めての所信表明となります。

大変厳しい社会情勢の中ではありますが、今後も議員皆様と共に、鹿部町の輝く未来をより活発な議論を重ね築いていきたいと考えていますので、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。新型コロナウイルス感染症の脅威が続く中、これまで、町民の皆様、事業者の方々には、様々な制限やご負担をおかけする中で、ご理解とご協力をいただいていますことに改めてお礼申し上げます。また、かけがえのない命を守るため献身的な対応をさせていただいています。医療・介護従事者の皆様はじめ、生活基盤維持のために感染リスクと隣り合わせの中で、最前線でご対応いただ

いています全ての方々に心より深く感謝申し上げます。私たちは、新型コロナウイルス感染症の脅威以前から、これまで、誰も経験のしなかったことのない人口減少や環境変化の中、まさに正解のない時代を迎えています。

昭和33年、鹿部村は、昭和の大合併の渦の中にいました。

その時、先人は、自らの足で歩んでいく、「独立独立歩の道」を選びました。

そして、強い意志と全村民の知恵を以て、「村の重点施策事項」として、産業振興や村有林造成、漁港整備、全村的副業の確立、観光、温泉、地下資源開発など、どれも挑戦的な未来を描きました。

それから25年後の昭和58年12月、鹿部村は、発展を遂げ、村から町へとなる町制施行を実現しました。時代背景もあつたにせよ、

村民が一丸となり、希望に満ちた未来を描き、自身自身やこの地に誇りを持ち、その可能性を信じたからこそ成し遂げられた素晴らしい偉業だと思っています。

同じく、15年前の平成の大合併時、私たちは独立独立歩の道を選び、10年前に第5次鹿部町総合計画を策定し、新しいまちづくりへの挑戦として、交通体系変革への対応、温泉や水産物など地域資源の高度利用、雇用拡大・起業・定住の促進と3つの項目を掲げ、進めてきました。

当計画の人口推計では、

2022年は4,226人、実際には、3,700人まで減少し、大岩、鹿部、出

来澗地区の20代の漁協組合員が一人もいなくなり、毎年、生まれてくる子どもたちは15人程度。そして、相次ぐ、商店の閉店。

私たちは、この事実を直視し、ふるさと存続の危機

にあることを改めて認識し、共有しなければならぬと思います。

一方で、道の駅しかべ間歇泉公園は、都市と地方の交流拠点として、年間30万人もの方々が訪れる施設となり、また、水産物や加工品の返礼品を中心とした、ふるさと納税による寄附額は7億円を超えています。

こうした鹿部町のファンの皆様にも、もう一品、もう一食、もう一泊、そして、何度も行きたいとの思いへどうつなげられるかが、各産業を跨いだ、町全体の活性化やまちの魅力向上に、大変重要であると考えています。

令和3年度から、第6次総合計画の策定に着手しています。

一人でも多くの地域の方に、自分事として、この地域の未来を語っていただき、将来像を共有し、地域一丸となつて先人が築き上げた